

OTC 医薬品を用いた実務研究の実施方法

城西国際大学薬学部 山村重雄

(〒285-8555 千葉県東金市求名 1 TEL:0475-53-4583)

1. 啓発事業目的

日本における薬剤師の職能は「物質中心」から「人中心」へと変わってきています。しかし、残念ながらその薬剤師の心意気は社会に広く認められているとはいえないのが現状です。

一方、社会保障を考えたときこれ以上の医療費の増加は日本の財政そのものを破綻させかねません。薬剤師は、医薬品の適正な使用に関わることによって患者、生活者の健康な生活の維持に貢献していかなければなりません。今後、薬剤師は、軽医療 (Minor Ailments) 領域において、薬剤師が生活者のセルフメディケーションの手助けをすることで健康の維持、増進に寄与していく職能を広く発揮することが望まれます。

しかし、薬剤師がこのような役割を十分に果たしてきているのか、あるいは、果たすことができる能力を備えているのかを証明した報告はほとんどないのが現状です。今後、薬剤師がセルフメディケーション領域でさらに活躍するためには、薬剤師の役割を、自らが実務研究を通して科学的に証明していくことが求められます。しかし、日本では、薬剤師による実務研究の必要性に対する理解はほとんどなく、その実施方法も十分に理解されていません。

そこで、この啓発事業ではカナダの薬剤師の実務研究の第一人者である二人の教員を招聘し、セルフメディケーションの中で薬剤師が自らおこなう実務研究にはどのような意味があり、どのように遂行すべきかを紹介することを目的としました。今回招聘した教員は、カナダにおいて薬剤師の職能がいかに医療に貢献していることを科学的に証明する実務研究 (Practice Research) を通じて薬剤師の職能を広げる活動をしている第一人者です。日本の薬剤師が実務研究を学ぶに最も適した教員といえます。

本啓発事業では、薬剤師が行う実務研究の重要性を広く認識してもらう機会を提供し、参加された方々が、ご自身の職場環境で実務研究を実施して薬剤師がセルフメディケーションに関わることで、生活者にとって有意義である事を科学的に証明していく第一歩となることを目的としました。

2. 啓発事業実施方法および内容

2. 1 実施実績

日時：平成24年12月1日（土）10:00-18:00、2日（日）10:00-13:00

場所：城西国際大学紀尾井町キャンパス、302 教室

ワークショッププログラム

12月1日（土）

10:05-11:05 Pharmacists' Role in Patient Care in Canada (Prof. R. Tsuyuki)

11:30-12:30 How to Use OTCs for Minor Ailments (Prof. J. Taylor)

13:30- How to contribute patient care using OTC drugs (Prof. J. Taylor)

13:30-14:00 Patient care process using OTC medicines

14:00-15:30 How to support patients with OTC medicine use

16:00- How to teach/educate OTC medicines (Prof. J. Taylor)

16:00-16:30 How to teach OTC medicines to students

16:30-17:30 How to educate pharmacists on OTCs/Minor ailments

17:30-18:00 Q and A

12月2日（日） 10:00-13:00

10:05-10:50 Practice research involving OTCs (Prof. J. Taylor)

10:55-11:40 What is pharmacy practice research and why it is important for the future of pharmacy (Prof. R. Tsuyuki)

11:45-12:30 Pharmacist care improves patient outcomes - A review of the evidence (Prof. R. Tsuyuki)

12:30 Q and A

講師略歴

Ross Tsuyuki 教授は、アルバータ大学医学部教授（心臓病学）であり、Epidemiology Coordinating and Research (EPICORE) センターの所長、健康に関わる研究調整センター、コミュニティー薬局における学際的な研究に携わっております。また、カナダの薬剤師会雑誌である Canadian Pharmacist Journal (CPJ)の編集長をつとめています。

Jeff Taylor 教授は、サスカチュワン大学薬学部教授で OTC を用いた薬物治療やセルフメディケーションを中心に教えています。大学で教鞭をとる傍ら薬局店頭で患者指導を行うなど、実務と教育を兼ねた活動をしています。特に、OTC 医薬品の提供を通して生活者と薬剤師の関係に焦点を当て

た実務研究を遂行しています。OTC に関する実務研究ではツユキ教授との共著も多くセルフメディケーション領域で幅広く活躍しています。

2. 2 講演内容概略

1) Pharmacists' Role in Patient Care in Canada (患者ケアにおけるカナダの薬剤師の役割)

Prof. R. Tsuyuki

イントロダクションとして、カナダの医療制度に触れた後、カナダで近年ひろがってきた新しい薬剤師業務について紹介があった。リフィル、処方の変更、剤形変更、代替調剤、薬剤師による処方、臨床検査の依頼、ワクチン接種などの話題が提供された、

2) How to Use OTCs for Minor Ailments (軽医療でどのように OTC を使うか) Prof. J. Taylor

カナダで OTC が使用される事が多い軽い疾患について紹介された。カナダでは薬剤師だけが取り扱える OTC 医薬品があり、風邪や胸焼けなどの軽い症状での OTC 医薬品の使い方についての紹介があった。カナダにおいても、患者からの質問は OTC 医薬品に関するものが多く、もっと OTC に関わるべきとの見解が示された。

3) How to contribute patient care using OTC drugs (Prof. J. Taylor)

Patient care process using OTC medicines (OTC 医薬品を用いた患者ケアのプロセス)

薬剤師が患者との関係を構築していくプロセスを OTC 医薬品の販売のシナリオに基づいて紹介された。OTC 医薬品を用いた患者ケアのプロセスでは患者の症状を判断するための関わりが重要であり、そのための具体的なプロセスが紹介された。

How to support patients with OTC medicine use (OTC 医薬品を用いてどうやって患者をサポートするか)

OTC 医薬品を用いた相談で最も多い便秘についてケースシナリオを用いて、薬剤師として対応できるケアについてエビデンスをあげながら講義が行われた。日本と使用される OTC の範囲が異なったが、成人から子供の便秘まで言及された。

4) How to teach/educate OTC medicines (Prof. J. Taylor)

How to teach OTC medicines to students (どうやって薬学生に OTC 医薬品を教えるか)

サスカチュワン大学での OTC 教育の実際を紹介された。OTC 教育は薬物治療学の中で講義されるが、低学年で一般的な軽い症状についてグループセッションで教育している状況が紹介された。

How to educate pharmacists on OTCs/Minor ailments (どうやって薬剤師に OTC/軽医療を教育するか)

アレルギー性鼻炎を例にとって、アレルギーの基礎から患者の行動様式の例示があった後、OTC で利用できる医薬品の分類から使用に際しての注意事項までを、実際に薬剤師教育を念頭に置

いて講義された。ここでは日本ではどのような教育が可能かをグループディスカッションで意見をまとめ、講師の先生とのやりとりをしながら、よりよい教育内容についての理解を深めた。

5) Practice research involving OTCs (OTC 医薬品を用いた実務研究) (Prof. J. Taylor)

教授がこれまでに行ってきた OTC 医薬品を用いた実務研究について紹介があった。OTC による実務研究は非常に難しいところがあるが、店頭での様々な工夫をすることで処方薬の実務研究に引けを取らない研究が実施可能である事を示した。

6) What is pharmacy practice research and why it is important for the future of pharmacy (薬学実務研究とは：なぜ薬学の将来に必要なのか) (Prof. R. Tsuyuki)

薬学実務研究とは何か、なぜ薬剤師が実務研究を行わなければならないかについて話された。薬学実務研究は、薬剤師が社会の健康を改善できることを証明する方法であることを教授が行ってきた実例を挙げて紹介した。一方、薬剤師による実務研究を行う際の問題点についても言及した。

7) Pharmacist care improves patient outcomes - A review of the evidence (患者アウトカムを改善する薬剤師のエビデンスの検討) (Prof. R. Tsuyuki)

なぜ、薬剤師が患者ケアを改善することができるのか、その理由を考え、薬剤師が介入できる内容には、ケアが必要な患者のスクリーニング、患者教育、受診勧奨であると紹介した。そのうえで、教授が実施した最新の实務研究の結果を照会し、薬剤師が血圧管理、脂質管理、糖尿病に対して、有効な介入ができることを示したエビデンスを示した。最後に、日本の薬剤師に対して実務研究を進めましょうという、処方せんを書いて講演を締めくくった。

3. 啓発事業成果

3. 1 参加者

参加者は25名（うち、学生5名でした）。年代別では20歳代5名、30歳代6名、40歳代3名、50歳代4名、60才代以上名、不明2名でした。

3. 2 参加者アンケートの結果

ワークショップに対するアンケート結果を6. にまとめた（未回答のアンケート用紙もあったので回答総数は参加者数とは一致しない箇所がある）。アンケート結果から今回のワークショップの参加者の満足度は非常に高かった事がうかがえる。

3. 3 ワークショップ内容に対する参加者の意見

ワークショップに対する参加者からの意見は、OTCに関わる薬剤師の職能をさらに発展させる必要があること、そのためには薬剤師による実務研究が必要である事を理解した内容となっていた。今回のワークショップの趣旨をよく理解していただき、参加者の多くにセルフメディケーションにおける実務研究の重要性を伝えることができたと考えている。

●参加者の意見

☆とても勉強になりました。とても刺激的でした。ありがとうございました。

☆今までこれからは病院内だけでなく薬局やドラッグストアでの薬剤師の役割が重要になってくると感じていましたが、具体的にどのような活動をすべきかとこれまで考えることができていませんでした。このような例を紹介していただけてよかったです。”

☆実際に、薬剤師が介入した例において、通常のケアに比べて大きな有意差がでているということは驚きだった。現場にいるからこそ患者の「ニーズがわかり、より良い研究をおこなうことができると強く感じ、将来は絶対に現場で働きたいと思った。

☆OTCでの薬剤師の関わりは、症状を聞き、（薬剤師）自分の判断で薬を選ぶ難しさは、処方箋で薬を調剤する以上に難しく責任も大きいと思います。OTC医薬品の適切な販売を学問的に研究されているティラー先生に敬意を表します。

☆日本においてOTCの実務研究の実践に関して初めて聞くお話ばかりで大変参考になりました。ただし、どのように行っていくべきなのか、地域の薬局として何ができるのかのもっと細かい検討が求められるように思います。

☆リサーチ、解析では薬剤師が行った仕事の結果・成果を示すためにとても重要であり、ほかの業種、行政への認知をしてもらうために率先して積極的に行い、アピールしていかなければならないと感じた。

☆今日の話を聞くまではOTC医薬品に関する実務研究と言われてもなんだかボンヤリとしたイメージしかわかなかったのだと思う。でも、OTCについて薬剤師がきちんと興味を持って知識を得て研鑽を積んでそれを患者さんや医療従事者にアウトプットして責任が取れると胸を張って言えるようになると良いのだろうということは理解できた。

☆OTCは、処方箋薬と違って、医師の手元から離れてしまってOTCを使用している消費者は、薬の用法、用量についての説明をほとんどされずにきちんと効果が出ているかの報告をする場もないと思います。だから、OTC医薬品を対象とした実務研究はOTC医薬品をより安全に、より適切に使用していただくための情報収集として必要だと思いました。

☆薬剤師ができること、職能に期待できることがツユキ先生の話で広がりました。

OTCに関してはスイッチが増えてきていることもあり、今後、薬剤師がもっと関わっていかなければならないと強く感じました。

☆雑誌などで海外の薬局情報は多少知っているつもりでしたが、今回のワークショップで実際の（生の）話を伺うことができまして大変有意義なものとなりました。勤務している調剤薬局を広い視野から見ている。将来的に生かしていきたいと思っています。

3.4 今後 OTC 医薬品の実務研究に関してどのような研修を希望するかに対する参加者の主な意見

今後さらに薬剤師による OTC 医薬品に関する実務研究の推進するための教育プログラム、システムを希望していることがうかがえる。引き続き、実務研究推進のための活動を続ける必要性を感じた。

●参加者の意見

☆学生が OTC について学ぶ機会が少ないように感じます。学生向けの OTC の勉強会があったら嬉しいです。

☆地域薬剤師会のレベルでこのような研修を開催して欲しい

☆大変素晴らしいワークショップをしていただき誠にありがとうございます。日本の薬剤師に大きな問題は、こうした素晴らしいワークショップに出てこない薬剤師をどうするか、でしょうか？

☆ツユキ先生の「薬学業務の将来は調剤することではなく、むしろ患者ケアにある」まさしくその通りだと思います。その実践のために、システマティックな教育カリキュラムを構築して欲しい。

☆もっと多くの研究例の紹介。また、その必要性を広くつたえるための広報活動が行われるべきに思えます、

☆今回のワークショップの中で薬剤師がプライマリーケアを担っているという自負が必要であると再認識した。軽医療を提供するために必要なスキル、トリアージをするための知識が必要であると思うので症候学の勉強がしたいです。

4. 考察

今回、啓発事業としてカナダの2名の教員を招聘し、OTC 医薬品を用いた実務研究の実施方法と題したワークショップを企画した。参加者は25名と少なめだったが、参加者の多くに対して満足度の高いワークショップを提供できた。予定では、ワークショップ後の質疑の時間も十分に取っていたつもりでしたが、参加者からの質問が多く、結果的に、質疑を打ち切らざるを得なかったのは少し残念であった。それほど参加者の熱い気持ち、今回のワークショップを成功させてくれたものと感謝している。質疑を通し、カナダと日本の薬剤師の相互理解にも一役買うことができたのであれば喜びである。

ワークショップでは、カナダでは、これまでに薬剤師自らの活動が生活者や患者の役に立っていることを実務研究で証明しながら、職能を広げていったことを学んだ。今後、セルフメディケーションの中で薬剤師が職能を拡大していくためには、薬剤師自ら実務研究を実施して、社会に対して薬剤師の有用性をアピールする必要があることを痛感させられた。今回のワークショップを1つのきっかけとして日本でも一人でも多くの薬剤師が実務研究に興味を持ち、実務研究が広まっていくことを期待している。特に、セルフメディケーション領域で薬剤師が生活者の健康維持、健康増進に役立っていることを、実務研究を通して証明していくことが急務であると感じた。

一方、セルフメディケーション領域における実務研究の遂行は非常に難しいことも同時に学んだ。カナダにおいても、多くの薬剤師の実務研究への参加意欲が低く、意欲ある薬剤師を見いだすことが研究をうまく進めるポイントであるとの指摘もあった。日本の薬剤師の各種学会等への積極的な参加状況を見ると、研究に対する意欲は高いものと期待できる。その意味でも、日本において薬剤師による実務研究を広める土壌はあるものと期待したい。

今回のワークショップの内容は薬事日報にも紹介され (<http://www.yakuji.co.jp/entry29281.html>)、セルフメディケーション領域において薬剤師による実務研究の重要性について広報することができた。今後、多くの薬剤師がセルフメディケーションを通して生活者の健康維持に貢献していることを実務研究によって明らかにし、その結果を公表していく必要がある。今回のワークショップがその一歩泊まることを期待している。

今後、日本で薬剤師によるセルフメディケーション充実のための実務研究推進のために、今回の経験を生かして次のステップを考えていきたい。

5. まとめ

セルフメディケーションにおいて薬剤師による実務研究の必要性を示すワークショップを開催することができた。薬剤師による実務研究の重要性は、まだ十分に認知されているとはいいがたい。今回のワークショップをきっかけとして多くの薬剤師が実務研究に対して興味を持ってくれることを期待している。今後、日本における薬剤師の実務研究の発展のために、さらに調査研究を続けていきたいと考えている。

今回のワークショップ実施に際し、施設を利用させていただいた城西国際大学、運営・実施にご協力いただいた城西国際大学薬学部の教員、学生に感謝申し上げます。また、今回の啓発事業の実施にあたっては、上田市薬剤師会からの協力もいただき、東京と上田市で同様な講演会を開催することができた。上田市薬剤師会に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回、本ワークショップを啓蒙事業として採択いただいた一般医用医薬品セルフメディケーション振興財団 佐藤誠一理事長に対し心からお礼を申し上げます。

6. 資料、写真、図表など



参加者全員の写真



参加者のグループディスカッション風景

表 アンケート集計結果

演題	非常に 満足	満足	どちらとも いえない	不満	非常に 不満
Pharmacists' Role in Patient Care in Canada	18	2	0	0	0
How to Use OTCs for Minor Ailments	13	5	1	0	0
Patient care process using OTC medicines	12	8	0	0	0
How to support patients with OTC medicine use	16	5	0	0	0
How to teach OTC medicines to students	16	3	1	0	0
How to educate pharmacists on OTCs/Minor ailments	15	3	1	0	0
What is pharmacy practice research and why it is important for the future of pharmacy	18	3	1	0	0
Practice research involving OTCs	18	5	0	0	0
Pharmacist care improves patient outcomes - A review of the evidence	17	5	0	0	0